

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2002-85150

(P2002-85150A)

(43) 公開日 平成14年3月26日 (2002.3.26)

(51) Int.Cl. ⁷	識別記号	F I	ターミナル (参考)
A 4 5 D 34/04	5 1 0	A 4 5 D 34/04	5 1 0 A 3 B 2 0 2
A 4 6 B 5/00		A 4 6 B 5/00	D

審査請求 有 請求項の数35 O L (全 14 頁)

(21) 出願番号 特願2001-212920(P2001-212920)

(22) 出願日 平成13年7月12日 (2001.7.12)

(31) 優先権主張番号 0 0 0 9 1 1 5

(32) 優先日 平成12年7月12日 (2000.7.12)

(33) 優先権主張国 フランス (F R)

(71) 出願人 391023932
ロレアル
LOREAL
フランス国パリ, リュ ロワイヤル 14

(72) 発明者 ジャンールイ アッシュュ, ゲレ
フランス国 75016 パリ, アヴニュー
レイモン ボワンカレ 27

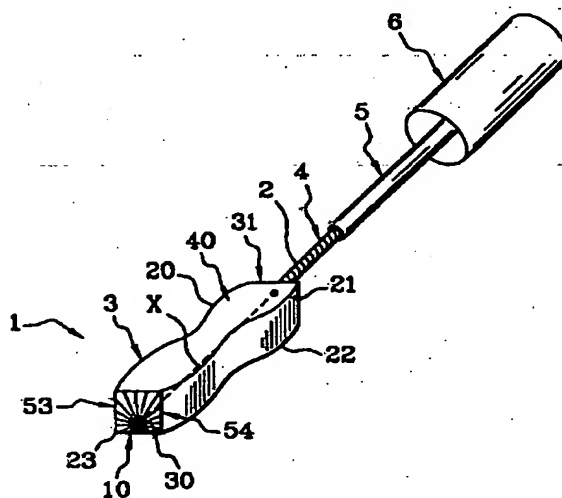
(74) 代理人 100109726
弁理士 岡田 吉隆 (外1名)
Fターム (参考) 3B202 AA16 AB26 BA13 BA19 BC06
DA03 EE06 EF03 HA01

(54) 【発明の名称】 特に睫毛又は眉毛等のケラチン繊維への製品、特にメーキャップ用品又はケア用品を適用するための器具

(57) 【要約】

【課題】 眉毛又は睫毛等に製品を適用する器具であって、使用が非常に簡単で、且つ従来の器具に比べて短い期間で操作に慣れることができる器具を提供する。

【解決手段】 睫毛又は眉毛等のケラチン繊維に製品を適用するための適用具 (1) であって、軸 X を有する尾部 (4) を具備し、当該尾部の一端には、製品を繊維に塗布することができるアプリケーター部位 (3) が接合し、当該アプリケーター部位 (3) は、各々が2つの長手方向の縁 (20-23) によって区画され、当該アプリケーター部位の少なくとも一部にわたって広がる少なくとも2つの面 (10, 14, 53, 54) からなる。少なくとも1つの第一の面 (40-41, 43-45, 47-49) は、頂点が当該アプリケーター部位の第一の端部の方向を向くゼロではない角 α を軸 X と共に形成し、少なくとも1つの第二の面 (10, 11, 13-15, 17-19) は、その頂点が当該アプリケーター部位の第二の端部の方向を向くゼロではない角 β を軸 X と共に形成する適用具。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 睫毛又は眉毛等のケラチン繊維に製品を適用するための適用具(1, 1')であって、軸Xを有する尾部(4)を具備し、当該尾部の一端には、製品を繊維に塗布することができるアプリケータ部位(3)が接合され、当該アプリケータ部位(3)は、各々2つの長手方向の縁(20-25)によって区画され、当該アプリケータ部位の少なくとも一部にわたって広がる少なくとも2つの面(10, 11, 13-15, 17-19, 40-41, 43-45, 47-49, 50-54)からなり、少なくとも1つの第一の面(40-41, 43-45, 47-49)は、頂点が当該アプリケータ部位の第一の端部分の方向を向くゼロではない角 α を軸Xとの間に形成し、少なくとも1つの第二の面(10, 11, 13-15, 17-19)は、その頂点が当該アプリケータ部位の第二の端部分の方向を向くゼロではない角 β を軸Xとの間に形成する適用具。

【請求項2】 軸Xに対して横向きに2つの端部又は面(30, 31)を具備し、当該端部又は面の間に上記第1の面(40-41, 43-45, 47-49)及び第2の面(10, 11, 13-15, 17-19)が広がり、上記の軸Xが当該2つの端部又は面(30, 31)を横切ることを特徴とする請求項1に記載の適用具(1)。

【請求項3】 上記第1の面(40-41, 43-45, 47-49)及び第2の面(10, 11, 13-15, 17-19)は、平面又は凹状であることを特徴とする請求項1又は2に記載の適用具(1, 1')。

【請求項4】 上記第1の面(40-41, 43-45, 47-49)及び第2の面(10, 11, 13-15, 17-19)は、少なくとも部分的に上記軸Xに沿って重なることを特徴とする請求項1乃至3の何れか1項に記載の適用具(1, 1')。

【請求項5】 上記第1の面(40-41, 43-45, 47-49)及び第2の面(10, 11, 13-15, 17-19)は、軸に対してほぼ同一の位置であることを特徴とする請求項4に記載の適用具(1, 1')。

【請求項6】 上記2つの長手方向の縁(20-25)は、お互い平行であることを特徴とする請求項1乃至5のいずれか1項に記載の適用具(1, 1')。

【請求項7】 上記2つの長手方向の縁(20-25)は、お互い平行でなく、少なくともその一部の長さによって集束及び／又は広がることを特徴とする請求項1乃至5のいずれか1項に記載の適用具(1, 1')。

【請求項8】 角 α 及び β が同一で、上記第1及び第2の面がお互い平行であることを特徴とする請求項1ないし7の何れか1項に記載の適用具(1, 1')。

【請求項9】 角 α 及び β が同一でなく、上記第1及び第2の面がお互い平行でないことを特徴とする請求項1ないし7の何れか1項に記載の適用具(1, 1')。

【請求項10】 上記角 α 及び β が2度から15度の間、好ましくは2度から10度の間、さらに好ましくは3度から8度の間であることを特徴とする請求項1ないし9の何れか1項に記載の適用具(1, 1')。

【請求項11】 上記第1及び第2の面は、お互い対向するように配置されていることを特徴とする請求項1ないし10のいずれか1項に記載の適用具(1, 1')。

【請求項12】 上記第1及び第2の面は、隣接していることを特徴とする請求項1ないし10のいずれか1項に記載の適用具(1, 1')。

【請求項13】 両端が軸Xに平行な平面に位置する少なくとも1つの第3の面(50-54)をさらに含むことを特徴とする請求項1ないし12のいずれか1項に記載の適用具(1, 1')。

【請求項14】 上記少なくとも1つの第3の面(50-54)が平面、凹状または凸状であることを特徴とする請求項13に記載の適用具(1, 1')。

【請求項15】 アプリケータ部位は、少なくともその一部の長さによって、例えば端部(33, 34)にわたって当該軸Xを中心とすることを特徴とする請求項1乃至14の何れか1項に記載の適用具(1, 1')。

【請求項16】 針金(2)を戻じて形成された芯に保持された剛毛から形成され、上記尾部(4)は、当該芯の非剛毛部位からなることを特徴とする請求項1乃至15に記載の適用具(1)。

【請求項17】 針金(2)を戻じて形成された上記分枝は、上記芯の軸まわりに螺旋を形成し、剛毛が上記芯に対して半径方向にひろがる器具であって、当該器具を垂直に保持し、前面から見た場合、上記螺旋は、左から右へ立ち上がることを特徴とする請求項16に記載の適用具(1)。

【請求項18】 針金(2)を戻じて形成された上記分枝は、上記芯の軸まわりに螺旋を形成し、剛毛は、上記芯に対して半径方向に広がる器具であって、当該器具を垂直に保持し、前面から見た場合、上記螺旋は、右から左へ立ち上がることを特徴とする請求項16に記載の適用具(1)。

【請求項19】 請求項16乃至18のいずれか1項に記載の適用具(1)であって、当該措置が有する剛毛の全て又はその一部が中空断面(80)を有する剛毛、及び／又は弾性繊維から成る剛毛、及び／又は少なくとも1つの毛細管状の溝(89)を有する剛毛(83)、及び／又は長手方向の軸まわりに右又は左へ戻じられている剛毛(86, 87)、及び／又は端が研削された剛毛、及び／又は端がビーズ等のこぶ(90)を形成する剛毛(88)、及び又は長さが様々な剛毛(81, 82)、及び／又は静菌性フィラー、磁気性フィラー又は滑りを改善するためのフィラー等を取り込んだ剛毛、及び／又はフロック加工された剛毛、又はこのような剛毛を混合したものであることを特徴とする適用具(1)。

【請求項20】 複数の歯状体を少なくとも1列(91-94)に配してなる上記アプリータ部位を、例えば熱可塑性物質を成形することで、成形し、機械加工し、鋳造し又はスタンプ加工することで得ることができることを特徴とする請求項1乃至15に記載の適用具(1)。

【請求項21】 少なくともその一部の長さにわたって上記アプリータ部位(3)の断面は、三角形、四角形、五角形、六角形又は七角形であることを特徴とする請求項1ないし20のいずれか1項に記載の適用具(1、1')。

【請求項22】 上記の断面は、アプリータ器具(3)の少なくとも一部の長さにわたって一定であることを特徴とする請求項1乃至21に記載の適用部(1、1')。

【請求項23】 上記の断面は、アプリータ器具(3)の少なくとも一部の長さにわたって例えば漸進的に変化することを特徴とする請求項21又は22に記載の適用部(1、1')。

【請求項24】 上記アプリータ器具(3)の長手方向の軸は直線状又は湾曲していることを特徴とする請求項1乃至23の何れか1項に記載の適用具(1、1')。

【請求項25】 睫毛又は眉毛等のケラチン繊維に製品を適用するための器具(1、1')であって、軸Xを有する尾部(4)を具備し、当該尾部の一端には、概略一直線な方向に沿う様に配置され、製品を繊維に塗布することができるアプリータ部位(3)が接合し、当該アプリータ部位(3)は、2つの長手方向の縁(20-25)によっておのおの区画され、当該アプリータ部位の少なくとも一部にわたって広がる少なくとも2つの面(10、11、13-15、17-19、40-41、43-45、47-49、50-54)からなり、その直線は、当該アプリータ部位(3)の2つの断面の重心を通過し、当該各断面は、上記の2つ面に交差し、上記の軸Xに平行ではない器具。

【請求項26】 上記直線は、上記2つの断面の軸方向の間に位置する地点であって、上記2つの断面からゼロではない距離の地点で上記軸Xと交差することを特徴とする請求項25に記載の適用具(1、1')。

【請求項27】 眉毛又は睫毛等のケラチン繊維に製品を適用するための適用具(1)であって、針金を振じて作られ、剛毛を保持する芯(2)を湾曲させてできている、製品を繊維に適用することができるアプリータ部位(3)を具備し、当該アプリータ部位は、それぞれ2つの長手方向の縁(20-25)によって区画され、当該アプリータ部位の少なくとも一部にわたって広がる少なくとも2つの面(10、11、13-15、17-19、40-41、43-45、47-49、50-54)からなり、その輪郭線は、針金を振じて形

成された芯(2)の曲率と同じ曲率を有し、且つ当該アプリータ部位(3)の2つの断面が有する重心を通過し、当該各断面は、上記の2つ面に交差し、上記の湾曲した針金芯(2)に平行ではない適用具(1)。

【請求項28】 上記の湾曲した輪郭線は、上記の2つの断面の軸方向の間に位置する地点であって、上記の2つの断面からゼロではない距離にある地点において上記の針金を振じて形成された芯と交差することを特徴とする請求項27に記載の適用具(1)。

【請求項29】 眉毛又は睫毛等のケラチン繊維に製品を適用するための適用具(1)であって、針金を振じて作られ、剛毛を保持する芯(2)からできている、製品を繊維に適用することができるアプリータ部位

(3)を具備し、当該アプリータ部位は、それぞれ2つの長手方向の縁(20-25)によって区画され、当該アプリータ部位の少なくとも一部にわたって広がる少なくとも2つの面(10、11、13-15、17-19、40-41、43-45、47-49、50-54)からなり、その直線は、当該アプリータ部位(3)の2つの断面が有する重心を通過し、当該各断面は、上記の2つ面に交差し、上記の振じれた針金芯(2)に平行ではない適用具。

【請求項30】 上記直線は、上記の2つの断面の軸方向の間に位置する地点であって、上記の2つの断面からゼロではない距離にある地点において上記の針金を振じて形成された芯(2)と交差することを特徴とする請求項29に記載の適用具(1)。

【請求項31】 第一の端部が把持部材(6)に固定されているか、これを形成し、第二の端部が第一の端部に対向し且つ請求項1乃至30の何れか1項に記載のアプリータ器具(1、1')に固定されている柄(5)を具備するアプリータ(110)。

【請求項32】 上記把持部材(6)は、上記アプリータ(110)に具備される容器(101)の開口部を閉じる要素をその裏側にさらに形成することを特徴とする請求項31に記載のアプリータ(110)。

【請求項33】 睫毛又は眉毛等のケラチン繊維のための製品を収容及び適用するための器具(100)であって、製品を収容するための容器(101)を具備し、当該器具は、搾り取り部材(106)が配置される近傍に開口部を形成し、当該器具(100)は、請求項31又は32に記載のアプリータ(110)を具備する。

【請求項34】 上記の製品は、繊維特にナイロン、レイヨン、コットン又はビスコース繊維を含有することを特徴とする請求項33に記載の器具(100)。

【請求項35】 マスカラ等の組成物を収容し、これを睫毛又は眉毛に適用するための請求項33又は34に記載の器具(100)の使用。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、睫毛、眉毛、口髭又は毛髪等のケラチン繊維に製品を適用する器具に関する。このような器具は、上記の繊維に適用されるべきメイクアップ用品、特に眉毛又は睫毛に適用されるべきマスカラ、及び／又はケア用品の適用に特に適している。

【0002】

【従来の技術及び発明が解決しようとする課題】特に本発明は、針金をヘアピン形状にして形成された2つの分枝の間に一層の剛毛を配置し、針金の両分枝をその軸回りに捻って作った「捻れブラシ」と通常呼ばれるブラシに関する。このように針金を捻って形成された螺旋（針金を一度巻く度に1つの螺旋ができる）によって複数の巻き輪が形成され、これら巻き輪は、針金を捻る方向に応じて、（ブラシを水平位置前面から見た場合）左から右に、又は右から左に立ち上がる。当該第1のタイプの捻れ方によって、時に「左捻れブラシ」と呼ばれるブラシを得ることができる。このようなブラシは、本願出願人が出願人である欧州特許出願公開第0611170号に特に記載されている。当該第2のタイプの捻れ方は、これまでで最も一般的なタイプであり、「右捻れブラシ」と呼ばれるブラシを形成することができる。この

ような捻れブラシは、「剛毛」部位を具備するアプリケーション部位を有し、針金の「非剛毛」部位まで延びる。当該「非剛毛」部位は、時にブラシの「尾部」と呼ばれ、特に器具を把持するための部材に接続された柄に器具を固定するために特に使用される。

【0003】本発明は、ポリエチレン又はポリプロピレン等の熱塑性物質を成形して得られるアプリケーション器具にも関する。このように成形された器具には、器具を柄に固定するための「尾部」が通常具備される。このような器具は、機械加工、鋳造又はプレスによっても作ることができる。材料として、熱塑性物質以外の物質を使用してもよい。

【0004】製品化された器具のほとんどは、断面の中心が器具の尾部の縦軸にある。従って、器具がいかなる角度に位置する場合であれ、一定の軸位置に位置する限り、器具の周りの製品が等しく施される。しかし、時々

睫毛のある区域にとって製品が余分に付着するため、塗布時にそれを薄く延ばすことができれば望ましい場合がしばしば見られる。逆に、使用者にとっては、一部分に製品が十分付着しておらず、更に付与したい場合もある。よって、適切にメーカーキャップを適用するための

ブラシの睫毛に対する操作が必要となり、使用者は、少なくともいくつか練習をしなくてはならない。

【0005】仏特許第2715038号には、少なくとも1つの切断面を有する構造が開示されている。ある実施態様では、本構造には、ブラシの尾部の軸に対して平行であってもなくてもよい1つの切断面が設けられている。そのような切断面は、ブラシの主要部に渡って形成

されていてよく、長手方向の2つの縁によって面の区

画がなされていない円錐台形の一端部で終端する。また、ブラシは、ブラシの尾部軸に対して平行な切断面2つを具備する。その結果、ブラシの尾部の軸を中心に比較的対照的な構造が得られる。しかし、これによって上記の問題が解決されるわけではない。

【0006】仏特許出願公開2605505号には、切断作業を反復して繰り返す、複数の面がブラシの尾部の軸に対して平行となるか、全て同一方向、特にブラシの自由端の方向に傾斜するように形成されることを主題とする捻れブラシが開示されている。いかなる場合であれ、このようにして形成された構造は、ブラシの尾部の軸を中心として対照的な構造となる。

【0007】成形により作られるもう1つのタイプのブラシが米国出願公開4403624号に開示されている。本書が開示するブラシは、自由端が勾配した縁を形成する一列の歯状体であって、睫毛をまとめる役目をする歯状体と、ブラシの軸部分に半径方向に配置され、製品を適用するために使用されるその他の歯状体を具備する。製品を付着させる外形は、ブラシの形状ゆえに、比較的対称で、進歩性がない。ブラシの角度位置に歯状体を半径方向に配置している点のみが製品の適用目的に有効に利用できる。

【0008】欧州特許第0410821号には、ブラシの断面がブラシの一端から他端へ回転する捻れブラシが開示されており、この結果、複数の縁部が設けられ、ブラシの表面には少なくとも1つの螺旋が形成される。ブラシにより形成される複数の面は、ブラシの尾部の軸に対して平行か、又は同一方向に傾斜している。

【0009】

【課題を解決するための手段】従って、本発明の目的の一つは、睫毛又は眉毛等に製品を適用するための器具であって、従来技術を参照しながら上記した問題が完全又は部分的に解決された器具を製作することにある。

【0010】特に、本発明の目的は、眉毛又は睫毛等に製品を適用する器具であって、使用が非常に簡単で、且つ従来の器具に比べて短い期間で操作に慣れることができる器具を製作することである。

【0011】本発明の他の目的は、特にマスカラ又はケア用品のための適用器具であって、少なくともその長さの一部にわたって製品を捕らえることができ、当該製品量が器具の角度位置に応じて変化し、当該製品量は、更に少なくとも1つの漸進的に変化する形状をした器具に沿って変化する適用器具を製作することである。

【0012】本発明の他の目的は、一の動作又は、製品を適用するための動作のあとに引き続き動作によって、所望の製品量を適用し且つ処理されるべき繊維を分離することを可能とする適用器具を製作することである。

【0013】本発明のさらなる他の目的は、処理されるべき繊維、特に睫毛を被覆して、長く見せ、及び／又はカールする点において格段に進歩した適用器具を製作す

10

20

30

40

50

ることにある。

【0014】他の目的は、以下の詳細な説明を読むことにより明らかになるであろう。

【0015】本発明の第1の側面によれば、眉毛又は睫毛等のケラチン繊維に製品を適用するための器具であって、軸Xを有する尾部を具備し、当該尾部には繊維に製品を適用することができるアプリケータ部位が連結され、当該アプリケータ部位には、2つの長手方向の縁によって各々が区画され、当該アプリケータ部位の少なくともその長さの一部にわたって形成される少なくとも2つの面が設けられており、少なくとも1つの第1の面は、軸Xと一緒にゼロではない角度 α を形成し、当該角度の頂点が少なくとも1つの第2の面と軸Xの間に形成されたゼロではない角度 β の頂点に背を向け合っている器具を製作することによって、上記の目的を達成することができる。

【0016】このように、例えば、角 α は、アプリケータ器具の尾部の方向を向く開口を具備する。この例での角 β は、当該アプリケータ器具の尾部と、つまり角 α と反対方向を向く開口を有する。換言すれば、角 α の頂点は、アプリケータ器具の第一の端部の方向を向き、角 β の頂点は、第一の端部と反対の方向である、ブラシの第2の端部の方向を向く。

【0017】好適には、本発明の第一及び第二の面とは、ブラシが睫毛に対して明らかに軸方向に動かずに、睫毛が続けざまに係合する少なくとも1つの長さ部位を有する面をそれぞれ指す。このように、当該面は、例えば、軸に対してお互いが対向するように配置されるか、又は隣接するように配置されてもよい。

【0018】再び換言すれば、第一及び第二の面は、軸まわりに異なる角度位置にあるが、軸Xに沿って少なくとも部分的に、又はその前面にわたって重なる。

【0019】本発明の主要な目的は、使用時のわずらわしさを解消することなので、本発明のアプリケータ器具の構造によれば、初心者にも使用が簡単な構造に製作される。特にアプリケータ器具の面を区画する縁によって、処理すべき繊維を分離することができる。それらは、ブラシの軸に対して傾斜して配置されているため、尾部の軸まわりにブラシを少し回転させる動き等、繊維を自然な動きでブラシする間に器具は、剛毛又は歯状体が処理されるべき繊維同士の間を連続して貫通する。

【0020】さらに、第一及び第二の面が傾斜し又は裏を向き合うように配置することによって、繊維がアプリケータ器具が有する剛毛又は歯状体に対して横向きに配置され、特に繊維を長く見せ及び／又はカールするために繊維を被覆し、把持することができる。第一及び第二の面を裏が向き合うように配置すると、非対称又は偏心を構成し、よって、特に第一及び第二の面がお互い対向する位置に配置された場合、器具の一定の軸位置にとつては、器具のすべてのまわりで製品を様々に被覆するた

めの外形を形成することができる。これは、器具が充填される器具の一部を構成する搾り取り部材を器具が通過するとき、第一の角度位置にある器具の第一点の搾り取りは、第二の角度位置にある器具の第二の絞り取りとは異なるが、同じ軸位置に位置するためである。器具が軸に対してその面が傾斜且つ対向するように配置されるため、器具を軸まわりに回転するとき、第一及び第二点における被覆が反復、継続して変化する。

【0021】このように、適用時の特徴の観点から、本発明のブラシであって、「右回りブラシ」タイプのブラシは、処理されるべき繊維を被覆し、繊維に長さを出す点で特に有利である。この利点は、従来の「左回りブラシ」タイプのブラシを使用した場合にも得ることができるが、本願ブラシによると、特にメーカー初心者により使用しやすく、且つ処理されるべき繊維により多くの製品を施すことができる。製品は、適用されると直ぐに均一に付着する点にはっきり気づくであろう。いくつかの従来の適用器具によると、少なくとも適用時に塊が生じ、それを除去するには、比較的長いブラッシングと、少なくともある程度のスキルが必要となる。

【0022】本発明の非常に有利な特徴によると、器具は、軸Xに対して2つの端面又は端部が対向し、当該端面又は端部の間に第一及び第二の面が広がり、当該2つの面又は部分は、軸Xによって切断される。換言すれば、少なくともある適用面に対して傾斜しているが、軸Xは、アプリケータ器具の包絡面内に位置する。適用時の処理すべき繊維に係る器具の軸回りになされる回転動作について、上記の特徴により、関連回転動作は、軸Xに対して面が傾斜しているため、その能力を十分発揮することができる。器具の剛毛又は歯状体は、処理すべき繊維の間を貫通しながら上方へ移動することができる。

【0023】好適には、第一及び第二の面は、平面又は凹状であって、凹型面によると、面を区画する縁がより明確に形成される。

【0024】また好適には、第一及び第二の面は、軸Xに対してその角度が相殺し合う位置にあるのに対して、軸位置はほぼ一致している。このように、第一及び第二の面は、軸との関係で見れば対向し、又は隣接している。第一及び第二の面を対向させた場合、繊維を最大限被覆することができる第1の領域は、繊維を最適に束ねることができる第2の領域に対して半径方向に位置し、ブラシに沿って移動すると、一方から他方の領域へは、第1及び第2の面の傾斜した外形に従って、比較的継続的に移行することができる。

【0025】第1及び第2の面の長手方向の縁は、お互いに平行であってもよい。あるいは、当該縁は、お互いに平行でないが、少なくともその一部の長さにわたって収束及び／又は広がるように湾曲している。

【0026】共に鋭角の角 α と β は、同角であってもよく、そうすると、第一及び第二の面をお互い平行に配置

することができる。これにより、器具が使用しやすくなる。

【0027】あるいは、角 α 及び β が異なる時、第1及び第2の面はお互いに平行でなくなる。特に面のそれぞれの角に関するこれらの変数は、適用に関する所望の特徴及び／又は適用される製品のレオロジーに従い変更される。

【0028】例えば、角 α 及び β は、2度から15度、好ましくは、2度から10度、さらに好ましくは3度から8度の間に形成してもよい。もちろん、これらの角度は、第1及び第2の面が広がる器具の長さ部分に従って、又は、器具の断面に従って変更することができる。

【0029】好適には、第1及び第2の面は、対向し合うように配置される。あるいは、第1及び第2の面は、隣接する。

【0030】好適には、本発明の器具には、両端が軸Xに平行な面に位置する少なくとも1つの第3の面がさらに形成される。一般的に器具の尾部軸に対して平行に配置される当該面の外形は、平面、凹型又は凸型であってもよい。複数の凹型又は凸型領域は、軸Xに沿って長手方向に配置されるか、又は軸Xに沿って互いに裏向きに配置することができる。

【0031】好適には、アブリケータ部位は、少なくともその一部に渡って、特にその端部にわたって、軸Xをその中心とする。睫毛に製品を適用するための器具の場合、当該端部は、睫毛の下方又は目の角の睫毛への製品の適用が容易となる。

【0032】第1の実施態様によると、器具は、針金を振じて形成された2つの分枝から成る芯が保持する剛毛から形成され、その尾部は、当該芯の非剛毛部分から形成される。このような剛毛は、特にナイロン-6、6、ナイロン-6、6、ナイロン-6、10、ナイロン-6、12等の特にポリアミド、又は、エラストマー製からなる合成繊維、又は天然繊維からなってもよい。

【0033】振じれブラシの分枝は芯の軸まわりに螺旋を形成し、剛毛は、芯に対して半径方向に広がり、器具（左まわりブラシ）をほぼ垂直に保持した状態で前面から見た場合、螺旋は、おそらく左から右へ立ち上がる。あるいは、螺旋は、右まわりブラシの場合、右から左へ立ち上がる。

【0034】器具の剛毛は、断面が中空の剛毛、及び／又はエラストマー製の剛毛、及び／又は少なくとも1つの毛細管状の溝を有する剛毛、及び／又は長手方向に右又は左へ振じれた剛毛、及び／又はその端部が研削されている剛毛、及び／又は端がビーズ等のこぶを形成する剛毛、及び又は長さが様々な剛毛、及び／又は静電性フィラー、磁性性フィラー又は滑りを改善するためのフィラー等を取り込んだ剛毛、及び／又はフロック加工された剛毛、又はこのような剛毛を混合したものから構成してもよい。

【0035】本発明の他の実施態様によると、成形特に熱可塑性物質の成形、铸造、機械加工、プレスによって、これを得ることができ、アブリケータ部位は、少なくとも1列に配置された複数の歯状体からなる。これら歯状体の底辺は、少なくとも部分的に相殺しあうように、あるいは、個別の面の何れかの側に配置される。歯状体は、2つの連続する歯がくぼみ、特にV型くぼみを形成し、繊維を長く見せ及び又はノールさせるように被覆することができる。

10 【0036】少なくともその一部にわたって、アブリケータ部位の断面は、三角形、四角形、五角形、六角形又は七角形である。

【0037】振じれブラシの場合、それらの製作作業、特に第1及び第2の面を製作するには、特にかかるアブリケータ器具を製造するための産業道具におそらく横列になって取り付けられる切断器具である自動操作バサミ等の切断具が使用される。典型的には、振じり操作によって製作されるブラシは、円筒・円柱状の断面を有する。どんなブラシを希望するかによって、直接振じれ操作後のブラシから直ぐに第1及び第2の面を切断することができる。好適には、間の成形段階でブラシを中間形状にし、これから第1及び第2の面を切断する。このような中間形状としては、円柱形、円錐形、ラグビーボール形（ひし形）、ピーナッツ形、デリアボロ形が挙げらえる。

【0038】器具は、アブリケータ部位の少なくとも部分にわたって、一定の断面を有する。あるいは、器具は、アブリケータ部位の少なくとも部分にわたって、特に漸進的に変化する可変断面を有する。

30 【0039】アブリケータ部位は、真直ぐ又は湾曲した長手方向の軸を有する。

【0040】本発明の他の側面は、眉毛又は睫毛等のケラチン繊維に製品を適用するための器具であって、軸Xを有する尾部を具備し、当該尾部には繊維に製品を適用することができるアブリケータ部位が連結され、当該アブリケータ部位には、2つの長手方向の縁によって各々が区画され、当該アブリケータ部位の少なくとも一部にわたって形成される少なくとも2つの面が設けられており、直線は、アブリケータ部位の2つの断面の重心を通し、おのおのが当該2面に交差し、軸Xに平行ではない器具を製造することである。

40 【0041】好適には、直線は、当該2つの断面の間に位置する地点であって、上記2断面からゼロではない距離にある地点で当該軸Xと交差する。

【0042】本発明の他の側面は、眉毛又は睫毛等のケラチン繊維に製品を適用するための器具であって、剛毛を保持する湾曲した振じれ針金からなる芯から形成され、繊維に製品を適用することができるアブリケータ部位を具備し、当該アブリケータ部位には、2つの長手方向の縁によって各々が区画され、当該アブリケータ部位

のすくなくとも一部にわたって形成される少なくとも2つの面が設けられており、その輪郭線は、捩じれ針金から成る芯と同じ曲率を有し、アブリケータ部位の2つの断面の重心を通過し、おのおのが当該2面に交差し、湾曲した捩じれ針金から成る芯に平行ではない器具を製造することである。

【0043】好適には、上記の湾曲した輪郭線は、当該2つの断面の間に位置する地点であって、上記2断面からゼロではない距離にある地点で当該湾曲した捩じれ針金から成る芯と交差する。

【0044】本発明の他の側面は、眉毛又は睫毛等のケラチン繊維に製品を適用するための器具であって、剛毛を保持する真っ直ぐな捩じれ針金からなる芯から形成され、繊維に製品を適用することができるアブリケータ部位を具備し、当該アブリケータ部位には、2つの長手方向の縁によって各々が区画され、当該アブリケータ部位のすくなくとも一部にわたって形成される少なくとも2つの面が設けられており、その直線は、捩じれ針金から成る芯と同じ曲率を有し、アブリケータ部位の2つの断面の重心を通過し、おのおのが当該2面に交差し、捩じれ針金から成る芯に平行ではない器具を製造することである。

【0045】好適には、上記の直線は、当該2つの断面の間に位置する地点であって、上記2断面からゼロではない距離にある地点で当該捩じれ針金から成る芯と交差する。

【0046】本発明の他の側面は、一端が把持部材に接合又はこれを形成し、第二の端が第1の端と対向し、本発明のアブリケータ器具と固定されている柄を具備するアブリケータを製作することにある。柄は、尾部の軸に沿って配置されるか、又はこれに角度を有する位置に配置される。

【0047】好適には、把持部材は、アブリケータを具備する収容器具の開口部を閉じることができる部材を裏側にさらに構成する。

【0048】本発明の他の側面は、眉毛又は睫毛等のケラチン繊維のための製品の収容適用器具であって、製品を収容する容器を具備し、当該容器は、近傍に搾り取り部材が配置される開口部を形成し、当該器具には本発明の第二の側面に記載のアブリケータが収容される。搾り取り部材は、例えばエラストマー製のスリーブ状の一端によって形成された環状口部からなってもよい。あるいは、ワイパー部材は、例えば連続気泡又は半連続気泡発泡体ブロックからなってもよく、軸方向に通路又はスロット溝が形成される。

【0049】好適には、製品は、睫毛又は眉毛のメーキャップ用品及び／又はケア用品である場合、繊維、特にナイロン、レイヨン、コットン又はビスコース繊維を含有する。かかる繊維によって、睫毛をより長く見せることができる。本発明の器具は、こういった種類の製品に

特に適しており、搾り取り中には器具に、そして、そのあとの塗布時には睫毛に上記の繊維を適正に配置することが容易となる。上記繊維は、0.2mmから2mmの範囲の長さを有することができる。

【0050】これまで説明した変形例とは別に、本発明は、添付図面を参照して記載するいくつかの非限定的な実施態様について、以下に説明する複数の他の変形例からなる。

【0051】

- 10 【発明の実施の形態】図1(A)には、四角形断面を有するブラシ1を非常に概略的に示した。本器具のアブリケータ部位は、符号3で示されている。ブラシの尾部4の軸Xは、ブラシの一面10と共に鋭角 β を形成し、その頂点は、尾部4の方向を向いている。ブラシ1の尾部4の軸Xは、当該面10と反対に位置するブラシの一面40と共に角 α を形成し、その頂点は、尾部4に対し背を向けている。角 α 及び β は、ほぼ同角で、面10及び40は、ほぼ平行となる。角 α 及び β の角度は、ほぼ5度である。長手方向の2つの面は、ともに参照しないが、お互いが平行で、且つ尾部4の軸Xに平行である。残りの説明において、慣例により、番号「1」から始まる符号は、頂点が尾部4を向く「 β 」タイプの角を軸Xと共に形成する面を示す。番号「4」から始まる符号は、頂点が尾部4に背を向ける「 α 」タイプの角を軸Xと形成する面を示す。番号「5」から始まる符号は、2つの端が軸Xに平行な平面に位置する面を示す。

- 30 【0052】図1(B)に示す器具1は、「右回りブラシ」タイプの捩じれブラシからなる。ほぼ垂直位置のブラシを前面から見ると、針金2を捩じって形成された螺旋からなる複数の巻き輪は、右から左へ立ち上がっている。ブラシは、針金2の剛毛部位から形成されたアブリケータ部位3と、当該針金の非剛毛部位から形成された尾部4を具備している。尾部の一端は、柄の自由端と接合し、当該柄5の他端は、把持部材6に接合している。当該部材は、以下に詳細に見るように、当該器具が充填される収容器具の開口部を閉じることができる。

- 40 【0053】アブリケータ部位3は、ブラシ1の全長にわたり三角形の断面を有する。当該部位は、長手方向の縁20及び21が区画する第1の面10を具備する。第2の面40は、長手方向の縁21及び22に区画される。第3の面41は、長手方向の縁22及び20に区画される。尾部4の軸に対応する軸Xは、面40及び41が形成する頂部付近の一点で端面30を切断し、当該面30の反対に位置する端面31を面10付近、当該軸のほぼ中間あたりで切断する。

- 【0054】このように、面10は、頂点が尾部4の方向を向く1つの鋭角を軸Xと共に形成する。面40及び41は、頂点が端面30の方向を向く1つの鋭角を軸Xと共に形成する。

- 50 【0055】ブラシ1の尾部4が図において見えるよう

に、当該尾部4を部分的に嵌入した場合のブラシ1を図示した。実際は、ブラシの尾部4は、柄5が実質上アプリケーション部位3と接する程度に柄5と係合される。ブラシ1の面10は、柄5がアプリケーション部位3と接続する地点で切断し、面10の最短剛毛は、柄5の側面とほぼ同じレベルに位置している。

【0056】図2に示した実施態様では、ブラシ1の断面は、三角形で、若干凹状の3つの面13、43、50を有している。面13は、縁20と21に、面43は、縁21と22に、面50は、縁22と20によって、それぞれ区画されている。尾部4の軸に対応する軸Xは、面43及び50が形成する頂部付近の一点で端面30を切断し、当該面30の反対に位置する端面31を面13及び50が形成する頂点付近の一点で切断する。

【0057】このように、面13は、頂点が尾部4の方向を向く1つの鋭角を軸Xと共に形成する。面43は、頂点が端面30の方向を向く1つの鋭角を軸Xと共に形成する。

【0058】図3に示した実施態様では、アプリケーション部位3は、ほぼ2等辺三角形の形状で、一般的に三角形の断面を有し、2つの端面30と31によって区画されている。端面30及び31は、縁が面30の頂点と面31の角を組にして、又はその逆の場合も含めて結合させることによって、連結している。このようにして、縁20乃至23によって第1の面群44、51、52が区画され、当該面の幅は、端面31に向かって縮小し、当該縁によって第2の面群14も区画され、当該面の幅は、端面30に向かって縮小する。端面30は、端面31に対向して配置され、端面30が形成する二等辺三角形の頂点は、面31が形成する二等辺三角形の底辺に対向し、その逆もまた同じである。尾部4の軸に対応する軸Xは、面44の近く、当該軸の中間付近で端面30を切断し、又、面14の近く、当該軸の中間付近で端面31を切断する。このように、面14は、頂点が尾部4の方向を向く1つの鋭角を軸Xと共に形成する。面44は、頂点が端面30の方向を向く1つの鋭角を軸Xと共に形成する。面51及び52は、軸Xと平行である。本実施態様の器具は、ある複数の面を有するが、説明を明確にするため、わざと図示しなかった。

【0059】図4(A)乃至4(C)に示した実施態様では、アプリケーション部位3は、主要部位32と端部33からなる。主要部32は、三角形の断面を有し、当該断面は、尾部4の方向から遠ざかるにつれ縮小していく。当該三角形の断面は、3つの面14、44、51を区する3つの縁20、21、22を有する。ブラシ1の主要部32は、2つの面に区画されており、1面は、尾部4に隣接するブラシの端に位置する面31であって、他面は、主要部32とブラシ1の端部33とが接続する場所に位置する面30である。軸Xは、尾部4の軸に対応し、面44と51が形成する頂点の近くに位置する地点

で端面30を切断し、又、面14と51が形成する頂点近くに位置する地点で端面31を切断する。

【0060】このように、面14は、頂点が尾部4の方向を向く1つの鋭角を軸Xと共に形成する。面44は、頂点が端面30の方向を向く1つの鋭角を軸Xと共に形成する。面51は、軸Xに平行している。

【0061】端部33は、ブラシ1の自由端に向かって縮小する断面を有し、この部位で睫毛の下方部位又は、目の角部の睫毛にメーキャップを施すことができる。面51は、一定の傾度でもって、主要部位32と端部33の両方にわたって配設されている。

【0062】図5に示された実施態様では、アプリケーション部位は、その断面が正方形で、長手方向の4つの縁20、21、22、23を有する。4つの縁20乃至23は、4つの面を区画する。面40は、縁20、21によって、面10は、縁21、22によって、面11は、縁22、23によって、面41は、縁23、20によって、それぞれ区画される。軸Xは、尾部4の軸に対応し、面40と41が形成する角の近くに位置する地点で端面30を切断し、又、面10と11が形成する角に位置する地点で端面31を切断する。

【0063】このように、面10及び11は、頂点が尾部4の方向を向く1つの鋭角を軸Xと共に形成する。面40、41は、頂点が端面30の方向を向く1つの鋭角を軸Xと共に形成する。

【0064】換言すれば、本実施態様によると、「 α 」タイプの角を形成する面のいずれもが「 β 」タイプの角を形成する面に対向し、その逆も同じである。同様に、「 α 」タイプの角を形成する面のいずれもが「 β 」タイプの角を形成する面と「 α 」タイプの角を形成する面を側方に有する。同様にことが「 β 」タイプの角を形成するいずれの面にも該当する。

【0065】図6に示された実施態様では、アプリケーション部位は、その断面が正方形で、長手方向の4つの縁20、21、22、23を有する。4つの縁20乃至23は、4つの面を区画し、当該面は、組になって平行となる。面40は、縁20、22によって、面51は、縁21、22によって、面10は、縁22、23によって、面50は、縁23、20によって、それぞれ区画される。

【0066】軸Xは、尾部4の軸に対応し、面40近くに位置する地点で端面30を切断し、又、面10近くに位置する地点、当該軸のほぼ中間地点で端面31を切断する。

【0067】このように、面10は、頂点が尾部4の方向を向く1つの鋭角を軸Xと共に形成する。面40は、面10に対向し、頂点が端面30の方向を向く1つの鋭角を軸Xと共に形成する。面50と51は、お互いに平行で、且つ軸Xに対して平行である。

【0068】図7に示す実施態様は、図5に示す実施態

様の面10及び41に対応する面17及び47の形状が凸状で、その凸面は、真っ直ぐな縁20乃至23に平行な1本の軸に沿って配置されている点において、図5に示す実施態様と異なる。

【0069】図8に示す実施態様は、図6に示す実施態様の面50及び51に対応する面53及び54の形状が波状形で、その谷がアプリケータ部位3のほぼ中間に位置する点において、図6に示す実施態様と異なる。縁20乃至23の形状は、真っ直ぐではなく、面53及び54の輪郭と等しい。このようなブラシは、はじめの形状が大体ビーナツツのようなブラシを加工して作ることができる。

【0070】図9(A)乃至9(C)に示す実施態様は、アプリケータ部位3は、実施態様6のアプリケータ部位3と同一の主要部位32と、当該主要部位まで広がる端部33を具備する点において、図6に示す実施態様と異なる。端部33は、円錐台形を形成し、これにより睫毛の下方部位や目の角の睫毛にメーキャップをより容易に施すことができる。主要部位32と端部33の間の接合点には肩部35が形成される。

【0071】更に、以上の実施態様ではブラシが全て「右回りブラシ」であったが、本実施態様におけるブラシは、「左回りブラシ」である。このことは、ほぼ垂直位置のブラシを前面からみると針金2を据えつけて形成された螺旋からなる巻き輪が左から右へ立ち上がっていることからわかる。

【0072】図10(A)及び(B)に示す実施態様のブラシは再び「右回り」タイプである。アプリケータ部位3は、その断面がフラストコニカル(frustoconical)で、長手方向の4つの縁20、21、22、23を有する。4つの縁20乃至23は、4つの面を区画する。面14は、縁20、21によって、当該面14に隣接する面15は、縁21、22によって、当該面14に対向する面44は、縁22、23によって、当該面15に対向する面45は、縁23、20によって、それぞれ区画される。

【0073】軸Xは、尾部4の軸に対応し、面44と45が形成する角の近くに位置する地点で端面30を切断し、又、面14の近くに位置する地点であって当該軸のほぼ中間地点で端面31を切断する。

【0074】このように、面14及び15は、頂点が尾部4の方向を向く1つの鋭角を軸Xと共に形成するが、これら2つの面と当該軸によって形成されるいくつかの角度は、同一か又は異なる。面44及び45は、頂点が端面30の方向を向く1つの鋭角を軸Xと共に形成する。図10(B)に示す概略図から明らかなように、面14と軸Xが形成する角 β は、当該アプリケータ部位3がフラストコニカルな形状を有するため、面44と軸Xが形成する角 α より小さい。

【0075】図11に示す実施態様のブラシ1は、図5

に示す実施態様の面10及び41に対応する面18及び48が平坦な変わりに凸型をしている点において図5に示す実施態様と異なる。面18及び48の幅は一定である一方、面11及び40の幅は、アプリケータ部位3のほぼ中間で最大値となる。図5に示す実施態様と同様に、面11及び18は、頂点が軸4の方向を向く1つの鋭角を軸Xと共に形成する。面44及び48は、頂点が端面30の方向を向く1つの鋭角を軸Xと共に形成する。

10 【0076】図12(A)及び12(B)に示した実施態様のブラシは、「左回り」タイプであって、その長方形断面は、端面30の正方形断面と端面31の正方形断面の間で形状が大きく変化していく。

【0077】アプリケータ部位は、長手方向の4つの縁20、21、22、23を有する。4つの縁20乃至23は、4つの面を区画する。面40は、縁20、21によって区画される。面40は、その全長にわたって、軸Xに対して端部分34まで傾斜している。当該部分は、軸Xに平行で、アプリケータ部位3の端面41に隣接している。面10は、面40に対向するよう配置されており、縁22及び23によって区画される。面10は、その全長にわたって、軸Xに対して端部分33まで傾斜している。当該部分は、軸Xに平行で、アプリケータ部位3の端面30に隣接している。面50は、縁21及び22によって区画され、面51は、縁23及び20によって区画される。面50及び51は、可変する幅を有し、軸Xに平行である。

【0078】このように、面10は、ブラシ1の主要な長さにわたって、頂点が尾部4の方向を向く1つの鋭角を軸Xと共に形成する。面40は、ブラシ1の主要な長さにわたって、頂点が端面30の方向を向く1つの鋭角を軸Xと共に形成する。面50と51は、お互いに平行で、且つ軸Xに対して平行である。面10及び40の傾斜は、端部33及び34の長さに対応する長さ分、軸方向に相殺し合うが、主要部位において重なり合っている。端部33及び34を設けることによって、睫毛の下方部位又は目の角の睫毛にメーキャップをより容易に施すことができる。

40 【0079】図13に示す実施態様のブラシは、「右回り」タイプのブラシで、断面の形状が長方形で、4つの長手方向の縁20乃至23を有する。端面30によって形成される長方形は、端面31が形成する長方形に対して90度回転して配置される。よって、真っ直ぐな縁20乃至23は、端面30が形成する長方形の両縦辺を端面31が形成する長方形の両横辺と組にして連結させる。逆の場合も同様である。

【0080】面44は、縁20、21によって、面44に隣接する面14は、縁21、22によって、面44に対向する面45は、縁22、23によって、面14に対向する面15は、縁23、20によって、それぞれ区画

される。

【0081】軸Xは、尾部4の軸に対応し、端面30は、当該面のほぼ中心点で当該軸により切断され、端面31は、当該面のほぼ中心点で当該軸により切断される。

【0082】このように、面14及び15は、頂点が尾部4の方向を向く1つの鋭角を軸Xと共に形成する。面44及び45は、頂点が端面30の方向を向く1つの鋭角を軸Xと共に形成する。以上の説明から明らかなように、本実施態様によると、角 α を向いて配置された面は角 β を向いて配置された面と隣接する。

【0083】図14(A)乃至14(E)に示された実施態様のブラシ1は、尾部4に隣接するブラシの端部付近に円錐台34をもう1つ具備する点において、図9

(A)乃至9(C)に示された実施態様と異なる。当該円錐台34は、ブラシの主要部32と肩部36により区別される。当該肩部は、ブラシ1の他端付近に形成された肩部35と半径方向に相対する。軸Xに平行な2つの面50及び51は、図7に示した実施態様の面17及び47の場合と同様に凸型の形状をしている。

【0084】アプリケーション部位3の主要部32において、面10は、頂点が尾部4の方向を向く1つの鋭角を軸Xと共に形成する。面40は、頂点が端面30の方向を向く1つの鋭角を軸Xと共に形成する。本実施態様によると、「 α 」タイプの角度を有して配置される面40は、「 β 」タイプの角度を有して配置される面10と対向する。お互い対向し合うように配置された面50及び51は、軸Xにほぼ平行して配置される。本実施態様では、図9(A)乃至9(C)に示した実施態様の場合と同様に、ブラシ1は、「左回りブラシ」タイプである。

【0085】図15に示す実施態様は、針金を振って形成されたブラシの芯2がアプリケーション部位3の全長にわたって湾曲している点において、図6に示した実施態様と区別される。

【0086】図6に示す実施態様と同様に、面10は、頂点が尾部4の方向を向く1つの鋭角を軸Xと共に形成する。面40は、頂点が端面30の方向を向く1つの鋭角を軸Xと共に形成する。面50及び51は、互いに平行で、且つ軸Xのカーブに沿って配置される。

【0087】図16に示した実施態様では、アプリケーション部位の形状は、六角形である。当該部位は、6面を区画する6つの長手方向の縁20乃至25を有する。面40が縁25及び20に、面41が縁20及び21に、面50が縁21及び22に、面11が縁22及び23に、面10が縁23及び24に、面51が縁24及び25によって、それぞれ区画される。

【0088】軸Xは、尾部4の軸に対応し、面40及び41によって形成される頂点付近に位置する地点で端面30を切断し、面10及び11によって形成される角付近に位置する地点で端面31を切断する。

【0089】面10及び11は、頂点が尾部4の方向を向く1つの鋭角を軸Xと共に形成する。面40及び41は、頂点が端面30の方向を向く1つの鋭角を軸Xと共に形成する。面50及び51は、軸Xに平行である。

【0090】以下では図面17(A)乃至17(G)を参照するが、ここでは、以上で例証した実施態様を参照しながら記述したブラシ1を製作するために使用することができる剛毛に関する特徴がいくつか例証する。

【0091】図17(A)では円筒形の断面を有する剛毛80が示されている。

【0092】図17(B)には、短くて半径の大きい剛毛81と、長くて半径の小さい剛毛82が示されている。このような構成は、大きい半径の剛毛と小さい半径の剛毛を混合して構成されたブラシを研削して得られる。小断面の剛毛は、はさみに接すると傾斜し、若干短く切断される。一方、大きい半径の剛毛は、はさみが接しても真っ直ぐなままであるから、より短く切断される。

【0093】図17(C)では、剛毛89は複数の溝89を当該剛毛の全長または一部の長さにならって有し、毛細管作用によって製品を保持することができる。

【0094】図17(D)は、扁平な形状の断面を有する剛毛84を示す。その断面は硬いか、又は空洞であってもよい。

【0095】図17(E)では、剛毛85は、ブーメラン形の断面を有する。

【0096】図17(F)では、第1の振れ方向へ縦軸まわりに振った剛毛86と、第1とは反対の第2の振れ方向へ縦軸回りに振った剛毛87を混合したものが示されている。

【0097】図17(G)に示す剛毛88には、熱又は機械処理によって作られることができるビーズ90がその端部に設けられている。

【0098】図18に示す実施態様のブラシ1は、熱可塑性物質を成形して作られた。アプリケーション部位3は、その断面が正方形で、4つの長手方向の縁20、21、22、23を有する。当該4つの縁20乃至23は、4つの面を区画する。面40は、縁20、21によって、面10は、縁21、22によって、面11は、縁22、23によって、面41は、縁23、20によって、それぞれ区画される。

【0099】軸Xは、尾部4の軸に対応し、端面30を、面40付近に位置し、且つそのほぼ中間に位置する地点で切断し、面10及び11に形成される角付近に位置する地点で端面31を切断する。

【0100】面10及び11は、頂点が尾部4の方向を向く1つの鋭角を軸Xと共に形成する。面40及び41は、頂点が端面30の方向を向く1つの鋭角を軸Xと共に形成する。各面10、11、40、41は、ほぼその平面上を、処理すべき繊維に製品を塗布することができ

る一列の歯状体91乃至94が配置されている地点まで広がっている。当該歯状体列91乃至94は、粗となつて、他方の粗に対して同じ回転方向に90度の角度を有して配列している。ブラシ10の尾部4は、ブラシのアブリケータ部位と一緒に成形して得られる。

【0101】明らかなことであるが、以上で記述した実施態様については、当該第1、第2、及び可能性として第3の面の相対的組み合わせを単純に変更して、いくつもの変形例を考えることができる。いかなる組み合わせによっても、あるレオロジーを有する製品や、剛毛又はそれを形成する歯状体の一定の構成と関連付けて、特徴ある塗布が可能となり、しかもこの特徴は、塗布する度に異なるものとなる。

【0102】図19には、上記のアブリケータ器具1が具備される収容塗布装置100が示されている。当該装置100は、マスカラ等の化粧品溜めを収容する容器101と、アブリケータ110を有する。アブリケータ110は、握じれブラシタイプであつて、軸Xの柄5の一端に固定されているアブリケータ器具1を具備する。柄5の他端は、把持部材6と接合している。当該部材はまた、容器101を閉じる栓を構成する。当該容器101は、絞り取り部材6を有する。ここでは、当該部材は、円筒状のスリーブからなり、その一方の終端は、柔軟な環状口部107を形成している。アブリケータ110が容器101に充填させられている状態では、アブリケータ器具1は、搾り取り口部107と容器の底部の間に完全に横たわっている。その他のタイプの搾り取り部材、例えば、スロット又は通路が軸方向に貫通する連続気泡又は半連続気泡発泡対ブロックであつて、力が加わらない場合に当該スロット又は溝を形成する縁同士が事実上接触しているものも使用可能である。

【0103】当該アブリケータを使用するにあたり、使用者は、把持部材6によって形成された栓の螺子を回してこれを開け、容器101からアブリケータ110を取り出す。この際、アブリケータ器具1は搾り取り部材106を必ず通過するので、剛毛又は歯状体に分配する製品量を一定にすることができる。アブリケータは、ほぼ軸Xに対し長手方向に沿って引き抜かれる。使用後、使用者は、アブリケータを容器に戻すが、この時にもアブリケータ器具1は、絞り取り部材106を通過して戻される。

【0104】以上の詳細な説明では本発明の好適な実施態様を参照したが、本願で主張の特許請求の範囲から逸脱しないで、これら実施態様の変形例が考えられうることは、明白である。

【図面の簡単な説明】

【図1】 図1(A)は、本発明の幾何学的な特徴を示す概略図である。図1(B)は、本発明のアブリケータ器具の第1の実施態様に関する。

【図2】 図2は、本発明のアブリケータ器具の第2の実施態様に関する。

【図3】 図3は、本発明のアブリケータ器具の第3の実施態様に関する。

【図4】 図4(A)-4(C)は、本発明のアブリケータ器具の第4の実施態様に関する。

【図5】 図5は、本発明のアブリケータ器具の第5の実施態様に関する。

【図6】 図6は、本発明のアブリケータ器具の第6の実施態様に関する。

【図7】 図7は、本発明のアブリケータ器具の第7の実施態様に関する。

【図8】 図8は、本発明のアブリケータ器具の第8の実施態様に関する。

【図9】 図9(A)-(C)は、本発明のアブリケータ器具の第9の実施態様に関する。

【図10】 図10(A)-(B)は、本発明のアブリケータ器具の第10の実施態様に関する。

【図11】 図11は、本発明のアブリケータ器具の第11の実施態様に関する。

【図12】 図12(A)-(B)は、本発明のアブリケータ器具の第12の実施態様に関する。

【図13】 図13は、本発明のアブリケータ器具の第13の実施態様に関する。

【図14】 図14(A)-(E)は、本発明のアブリケータ器具の第14の実施態様に関する。

【図15】 図15は、本発明のアブリケータ器具の第15の実施態様に関する。

【図16】 図16は、本発明のアブリケータ器具の第16の実施態様に関する。

【図17】 図17(A)-(G)は、特に図1(A)乃至16に例示したいずれの実施態様にも使用可能な剛毛の特異な特徴を示す。

【図18】 図18は、本発明のアブリケータ器具の第17の実施態様に関する。

【図19】 図19は、本発明のアブリケータ器具を具備する収容適用器具を例示する。

【符号の説明】

1…アブリケータ器具

2…芯

3…アブリケータ部位

4…尾部

5…柄

6…把持部材

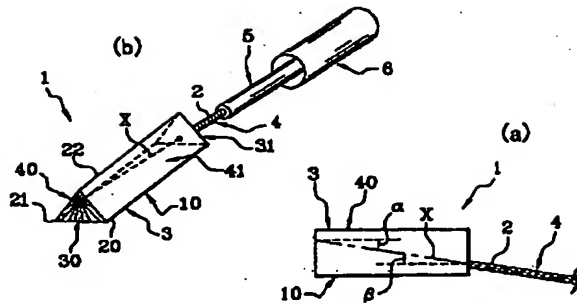
20-23…縁

30, 31…端面

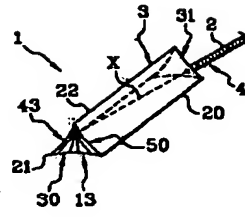
10, 40, 53, 54…面

X…軸

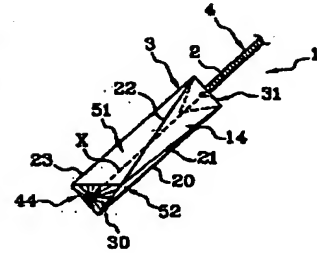
【図1】



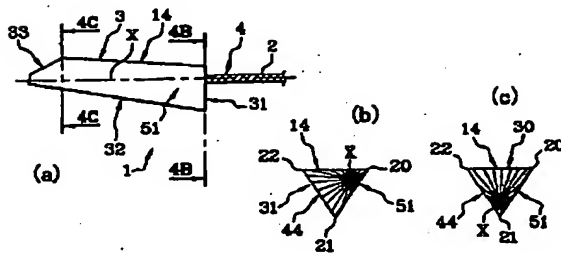
【図2】



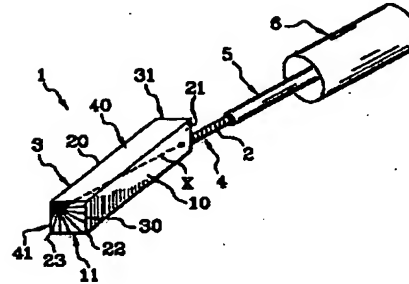
【図3】



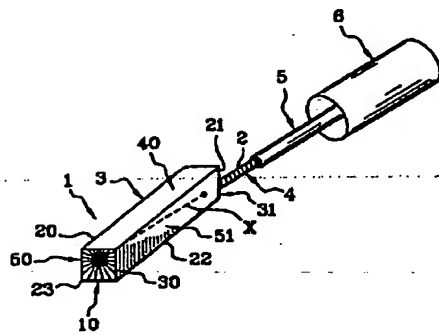
【図4】



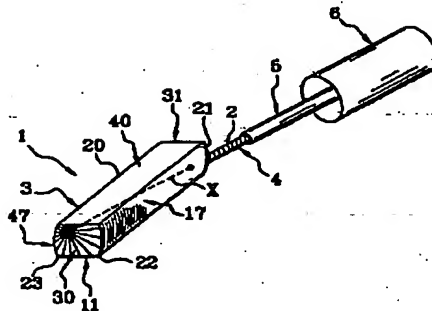
【図5】



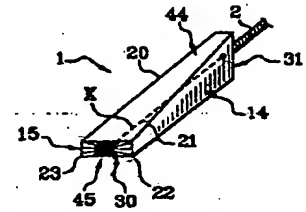
【図6】



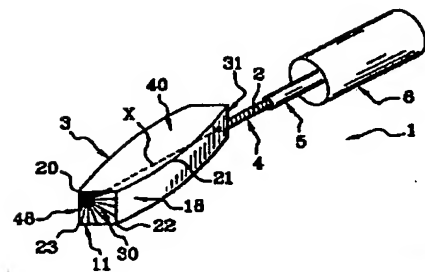
【図7】



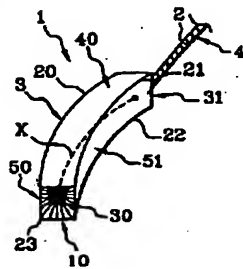
【図13】



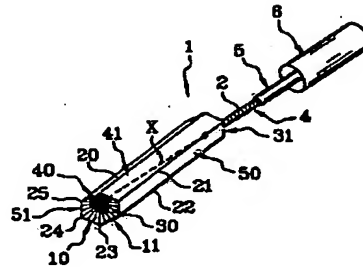
【図11】



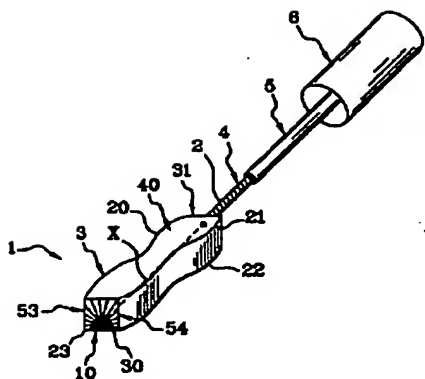
【図15】



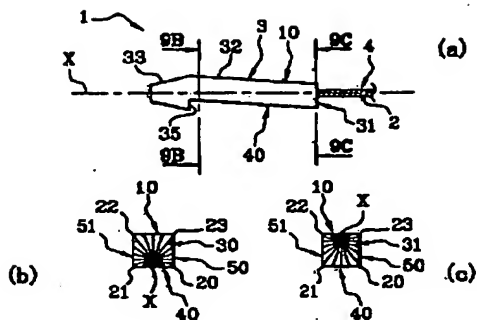
【図16】



【図8】

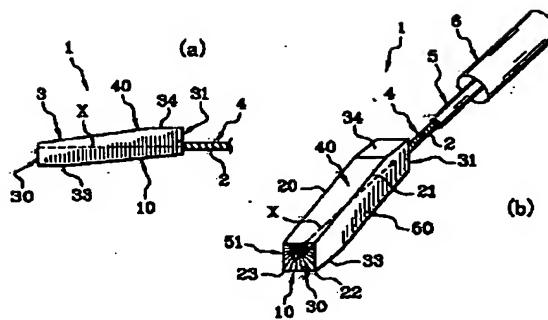
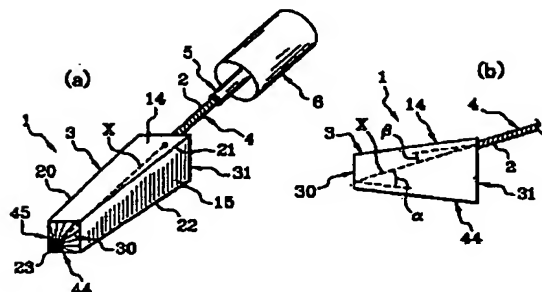


【図9】



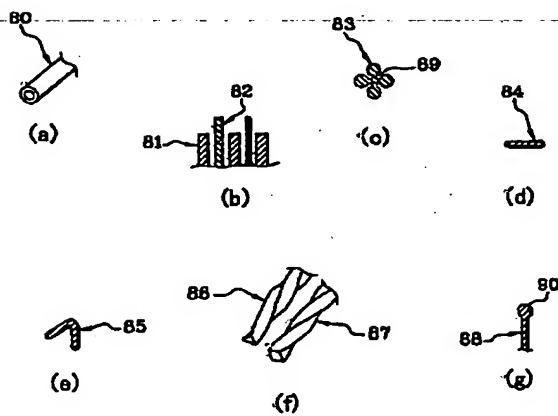
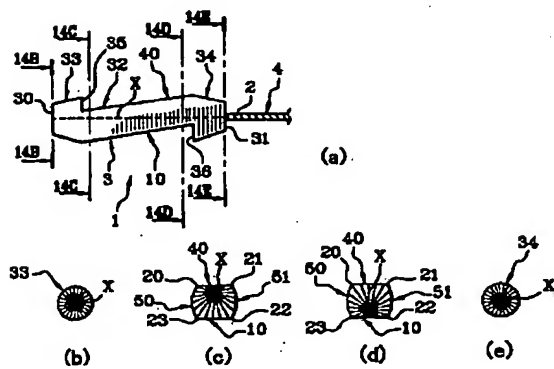
【図12】

【図10】

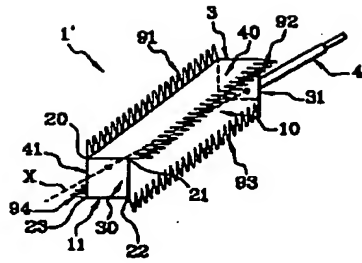


【図17】

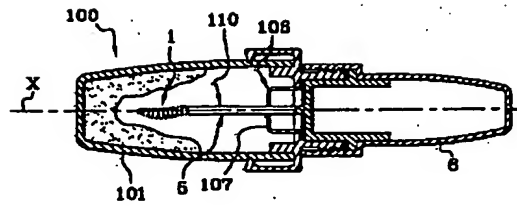
【図14】



【図18】



【図19】



PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 2002-085150

(43)Date of publication of application : 26.03.2002

(51)Int.Cl.

A45D 34/04
A46B 5/00

(21)Application number : 2001-212920

(71)Applicant : L'OREAL SA

(22)Date of filing : 12.07.2001

(72)Inventor : GUERET JEAN LOUIS

(30)Priority

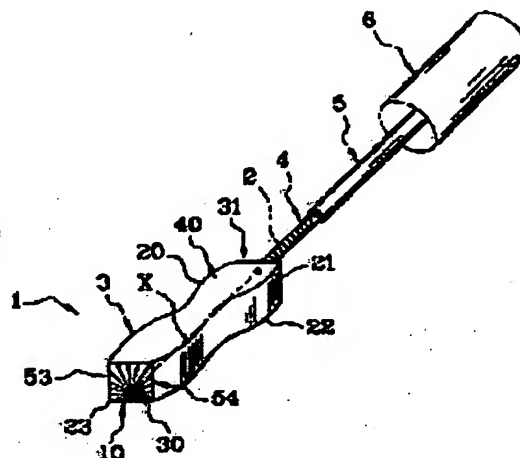
Priority number : 2000 200009115 Priority date : 12.07.2000 Priority country : FR

(54) PRODUCT ESPECIALLY FOR KERATIN FIBER SUCH AS EYELASHES OR EYEBROW, AND EQUIPMENT ESPECIALLY FOR APPLYING MAKE- UP ARTICLE OR CARE ARTICLE

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide an equipment which is used or application of a product to eyebrow or eye lashes and can be extremely simply used and to which a user can be experience in operation in a shorter time compared to a conventional equipment.

SOLUTION: This is an applicator (1) or application of a product to keratin fiber such as eyebrow, eyelashes, etc., and is equipped with a tail part (4) with an axis X to whose one end an applicator site (3) which can apply the product to the fiber is connected. The applicator site (3) comprises at least two faces (10, 14, 53, 54) partitioned by two edges (20-23) in the longitudinal direction and spread along at least a part of the applicator site (3). At least a first face (40-41, 43-45, 47-49) forms the top by a non-zero angle α , which is directed toward the first end part, and the axis X. At least a second face (10, 11, 13-15, 17-19) forms the top by a non-zero angle β , which is directed toward the second end part of the applicator site 3, and the axis X.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination] 12.07.2001

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number] 3807485

[Date of registration] 26.05.2006

[Number of appeal against examiner's decision
of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's
decision of rejection]

[Date of extinction of right]